

環境対応革開発実用化事業報告会(第62回研究発表会)のお知らせ

皆様のご参加をお待ちしております



前回の会場

《概要》

- 環境対応革開発実用化事業報告会 1部 10:00~10:45
- 環境対応革開発実用化事業報告会 2部 10:55~11:40
- 環境対応革開発実用化事業報告会 3部 13:00~13:45
- 環境対応革開発実用化事業報告会 4部 13:55~14:25
- 講演 ヨーロッパの汚水処理施設視察報告 14:30~15:00
- 【特別講演】皮革産業と持続可能性 15:10~16:40
- 懇親会(場所未定、会費制) 17:30~19:30



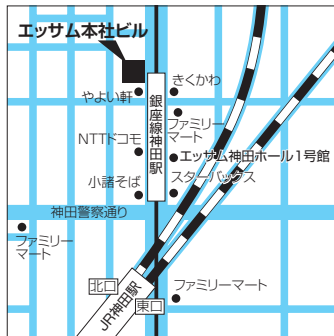
野村義宏理事長

日時：平成31年1月18日(金)

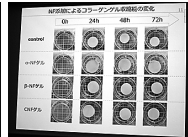
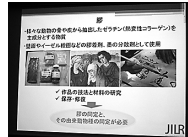
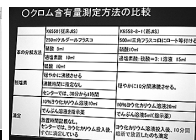
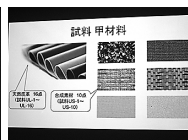
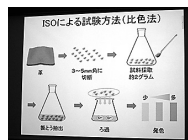
会場：エッサム神田ホール 本社ビル グリーンホール

東京都千代田区神田須田町1-26-3、3階
TEL：03-3254-8787

- JR「神田駅」東口より徒歩3分
- 東京メトロ銀座線「神田駅」5出口、徒歩1分
- 東京メトロ丸の内線「淡路町駅」A1出口、徒歩5分
- 都営新宿線「小川町駅」A1出口、徒歩5分



NPO日本皮革技術協会では、経済産業省の補助を受け、環境対応革開発実用化事業を行っております。本報告会では、成果発表及び参加者の方々との意見交換を行う場を設けたく、成果報告会を皮革研究発表会と兼ねて開催します。また、今回は「皮革産業と持続可能性」のテーマで、NPO法人日本エコツーリズムセンターの森高一共同代表が特別講演を行います。



プログラム

開会 10:00

◎第1部：10:00～10:45

1. 「上水中の残留塩素は皮革の染色に影響を及ぼすか？」
○砂原正明（都皮革セ）
2. 「6価クロム生成抑制クロム革の製造技術および特性」
○大形公紀、稲次俊敬、服部俊治、加賀川良子（日皮研）、
吉村圭司（皮産連）、高橋幸資（東農工大）
3. 「革中のノニルフェノールエトキシレートの定量方法」
○熊澤雄基（ニッピバイオ）、大形公紀（日皮研）

◎第2部：10:55～11:40

4. 「消費者苦情と販売後の革ホルムアルデヒド変化について」
○村井大輔（消科研）
5. 「羊革の産地による物性比較及び繊維構造の観察」
○高瀬和弥、相原道郎、寺嶋真理子（都皮革セ）、中村泰久（TFL）、野村義宏（東農工大）
6. 「伝統なめし技法を応用した鹿皮なめし法の基礎的研究」
○井上ゆみ子（奈良産総セ）

◎第3部：13:00～13:45

7. 「多機能注入口OPTIC-4によるクレープソール用天然ゴムの臭気成分分析」
○鷲家洋彦（兵庫工セ）、森勝（兵庫皮セ）
8. 「靴用材料の熱的特性」
○黒田良彦、中島健、山名正一、（都皮革セ・台東）、砂原正明（都皮革セ）
9. 「衣料用革の風合いに及ぼすクロム鞣剤添加量の影響」
○富永真理子、真島徳男（都皮革セ）

◎第4部：13:55～14:25

10. 「グリオキサール鞣し革の染色加脂について」
○隅田卓（皮技協）、原田修（兵庫皮セ）
11. 「ピックル不要で鞣し可能な新規鞣剤に関する研究(2)」
○松本誠（兵庫皮セ）

講演：14:30～15:00

「ヨーロッパの汚水処理施設視察報告」原田 修（兵庫皮セ）

【特別講演】：15:10～16:40

「皮革産業と持続可能性」

日本エコツーリズムセンター 共同代表 森 高一

- ・持続可能性（サステナビリティ）は、環境、社会、経済の三つが調和することで持続的に発展する状態を意味しています。
- ・まだ若い概念ですが、世界的に重要視されています。世界の皮革産業においても、この持続可能性について、どのように対処していくかが盛んに議論されています。
- ・日本エコツーリズムセンターの森高一共同代表は、これまで環境教育拠点施設の計画・運営、国や様々な地方自治体及び企業の環境プロジェクトにおける環境プランナーとして活躍しています。
- ・本講演では、皮革産業における持続可能性について、わかりやすく説明していただきます。

●問い合わせ

NPO 法人日本皮革技術協会

姫路市豊沢町129番地 あさひビル4F

TEL & FAX 079-284-5899 <http://jalt-npo.jp>